

2015年1月20日

## 富士重工業 ボーイング 777X 向け 中央翼組立工場を建設

富士重工業は、愛知県半田市にある半田工場敷地内に、新たに3棟目となる航空機の組立工場の建設に着手しました。この新工場では、米国ボーイング社の次世代旅客機「777X」の胴体と主翼をつなぐ重要な部位である中央翼の組立を行う予定で、工場完成は2016年を目指しています。

現在、半田工場では、ボーイング社の大型旅客機「777」「787」の中央翼、および防衛省の固定翼哨戒機(P-1)・次期輸送機(C-2)の中央翼などの組立作業を行っています。今回新たに「777X」用の中央翼納入を計画するにあたり、中央翼組立作業の集積や完成品輸送効率の観点から、当社の半田工場敷地内に建設することになりました。新工場を含む「777X」関連の設備投資額は100億円規模を予定しています。これによって、半田工場は世界に例を見ない、中央翼生産センターとなります。

なお、新工場は、2014年12月17日に愛知県による「21世紀高度先端産業立地補助金」の「平成26年度第2回補助対象案件」に選定されております。

富士重工業は、中央翼や複合材部品を含む主翼の開発・製造を得意技術としており、今後も自社の技術をさらに磨き、世界の航空機産業に確固たる地位を築くよう努めていきます。



新工場 完成予想図